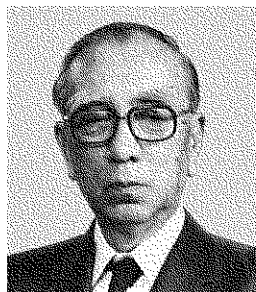


ニューガラスに日本の発展をこめて

日本電気硝子株式会社

取締役会長 長崎 準一



ニューガラスについて、私が日ごろ考えていることを述べさせていただきたい。

ガラスは、非常に古い素材であるが、ほとんど3000年近い間、あまり変化がなかったということができよう。古代から板ガラスもあり、瓶ガラスもあった。それから食器ガラスも、ローマ時代などはずいぶんつくられていた。しかし結局、ガラスが長い間、大して変化しなかった理由は、新しい需要が存在しなかったためである。

ところが近世に至って光学機械の需要が生まれてきた。そのときにすぐれた光学ガラスをつくろうという決意を持ったのが、ドイツのショットである。そしてショットが大変すぐれた光学ガラスをつくったということによって、科学技術が大きく進歩した。

それからエジソンが電球を発明したが、コーニングがそのガラスをつくろうという決意をかためた。そしてコーニングが照明

用のガラスを手がけ、さらにその次に電子管が生まれたときに、また電子管のガラスもコーニングが手がけていった。従って、ショットとコーニングが近代のガラスにおいて大変大きな貢献をしてきたわけである。

ところが最近、また新しい需要あるいは新しい要求が生まれてきた。それは半導体の発達であり、それから光通信である。そういうものは、いままで存在したガラスとは違ったガラスを必要とする。特に光通信に至っては、全くいままでの概念ではないガラスを必要とした。またそこへ結晶化ガラスが生まれ、それからバイオガラスの需要が生まれてきた。そしてまたそういうものが、新しい領域に対する需要にこたえ得るようになっていった。現在の状態はそういう状況であるように思われる。

これは、かつてのびんとか板ガラスとか、そういう巨大なトン数を必要とするものではない。量が少なくてファインなものであ

る。単位がグラムである。そのかわり大変な特性を持たなければならない。これが、ここに「ニューガラスフォーラム」と掲げられている分野で、われわれが扱わなければならない将来の仕事ではないかと考えられる。

いま、貿易摩擦で盛んに日本はたたかれ。しかし考えてみると、アメリカは戦争が終わった後、どんどん自分自身で勝手に脱工業化社会の方に行ってしまった。特別な宇宙開発などは別として、それ以外はどんどん脱工業化の方向に行ってしまった。私は、20年前に白黒ブラウン管やカラーブラウン管の工場を見せられたときは、そのレベルの高さに驚いたけれども、あの延長線上にアメリカがやっていたら、決して日米貿易摩擦がこのような状態にはならなかったらと思う。これは日本が責められているけれども、ちょっと筋が通らない。あなた方は自ら脱工業化社会の方に動いたで

はないか、と言わざるを得ない。しかし、絶えずわれわれは、こういう批判を聞かされている。ベル研究所から半導体が、トランジスタが生まれたときに、そのライセンスを各国に与えてしまったが、あれは大変な誤りだったと。もしベル研究所のその行為を、アメリカ政府が許さなかったら、こんな状態にならなかっただろうと。また、RCAがカラーブラウン管やテレビのノウハウ・ライセンスを各国に与えた。これもアメリカにとって甚だけしからんことをRCAがやったというふうに言われている。しかし、我々はこれから生まれてこようという新分野、ニューガラスの領域において、これでは日本が最もすぐれている、そして、関連事業に対して大変貢献している、だから日本は強いんだ、だれも文句言えないんだというようにしたい。ニューガラスフォーラムという、立派な組織を利用して、大いに発展を図っていきたいと思っております。